

長寿101歳おめでとう

市内最高齢者3人に 市長らが記念品を贈呈



小笠原市長らが3人を訪問し、記念品を贈って祝福した

「敬老の日」に先立ち、九月五日、市内の百一歳のお年寄り三人を小笠原喜郎市長や市社会福祉協議会の高橋増治会長らが訪れて、毛布などの記念品を贈って長寿を祝いました。

三人はともに明治十八年生まれの女性、国分の岩原崎衛さん（二月一日生まれ、奈路出身で土佐清風園の西川古牟さん（三月三日生

まれ、白木谷の黒岩兼猪さん（四月一日生まれ）で、市内の最高齢者です。清風園の西川さんは少し耳が遠いものの、まだお酒が飲みたいと言うほど元気で、毎日テレビを楽しんでいます。また、ときどき近所の人たちが訪ねて来るのを楽しみにしているそうです。市長や会長からのプレゼントに「ありがとうございます」とはつきりした口調でお礼を言っていました。

岩原崎衛さん



国分の岩原さんは九月に入ってから微熱が続いていますが、食事は好き嫌いなく、きちんと取るそうです。白木谷の黒岩さんは去年から少し耳が遠くなりましたが、訪れた市長らを玄関に出迎え、笑顔であいさつをするなど、まだまだ元気です。庭の草引きをしたり、「動かん」と足が弱る」と言っても運動を欠かしません。ご飯は一日三食、一杯ずつ食べ、特に野菜や果物が好物。早いときは朝六時に起きて、毎日テレビを楽しんでいます。長生きの秘訣は白木谷のきれいな空気だというこ



西川古牟さん



黒岩兼猪さん

とです。現在、県下で百歳をこえるお年寄りは三十九人で、最高齢者は昨年同様、東洋町の今宮久三郎さん（百四歳）です。岩原さん、西川さん、黒岩さん健康に注意して、いつまでも長生きをしてください。